

英仏海峡付近のカレーにある難民キャンプ、通称「ジャングル」が10月下旬、撤去されました。今号では、マリントピックス 2015年10月1日号、今年6月23日号でお伝えした欧州における難民問題の続報として、キャンプ撤去と物流への影響についてお届けいたします。

1. 1990年代から続いたキャンプの撤去

フランス北部の港町、カレーは1990年代後半より、英国を目指す移民や難民が違法に滞在する場所となっていました。今年10月時点でキャンプの住民は8,143人いたとされ、住民の多くは英国への移住を希望し、カレーから出る英国行きフェリーやトラックに潜り込んで非合法入国を繰り返していました。キャンプ撤去は10月24日から開始され、抵抗する一部住民が放火をするなどの騒ぎがありましたが、住民達はバスで一時収容施設に移送され、フランス当局は26日、同キャンプの撤去完了を宣言したと報じられました。



10月26日の撤去期間中、キャンプでのガスボンベ爆発による火災の様子
(写真:AP/アフロ)

2. 物流への影響

難民キャンプ「ジャングル」のあるカレーは英仏海峡トンネル近くに位置し、これまでも劣悪な衛生環境や悪化する治安が度々各メディアで取り上げられています。英国への密入国ルートの縄張りを巡ってシリア系難民とアフガン系難民が紛争を引き起こし、キャンプ内で大規模火災が発生したり、トラックを停止させるために火炎瓶を用いたり、道路を封鎖し衣服を燃やし、バットを手にドライバーを脅し、止まったトラックの荷台に潜り込むなど、消防隊や警察が駆けつける事態が繰り返されていました。カレーは英国の輸出入量の17%を占める重要な貿易ルートであり、難民がトラック等に潜り込んだ場合、中の貨物が廃棄・汚損されたり、荷台の屋根や鍵が破壊されるなどの被害が続出していました。



(地図:Google map)



ドライバーの安全問題だけでなく、トラックに難民が隠れていることが発見された場合、運送会社には最大で 2,000 ポンドの罰金が科せられることもあり、難民問題は経済的にも大きな脅威となっていました。

キャンプは撤去されたものの、フランス各地へ移送された難民の申請が認められる保証はないとされており、また英国行きをあきらめない難民も多い模様であることから、英国への密入国を目指して「ジャングル」跡地やその近辺に再び難民が舞い戻る可能性も否定できません。また、カレーからベルギー国境方向へ 40km ほど離れたフランスの港湾ダンケルクは英国のドーバーとフェリーで結ばれており、これまでクルド人を中心とした難民約 1,000 人が居住していましたが、今回のカレーの「ジャングル」撤去により、当局の指示に従わなかった多数の難民が流入しているとの情報もあり、まだ根本的に解決したとは言いきれない状況です。カレー周辺における英国密入国のためのトラックへの侵入のリスクは当面は改善されるものと思われませんが、ダンケルクも含め、英仏海峡沿岸都市周辺では、物流への影響の芽は引き続き残っている可能性があり、今後の情勢の変化が注目されます。



本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」

http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html